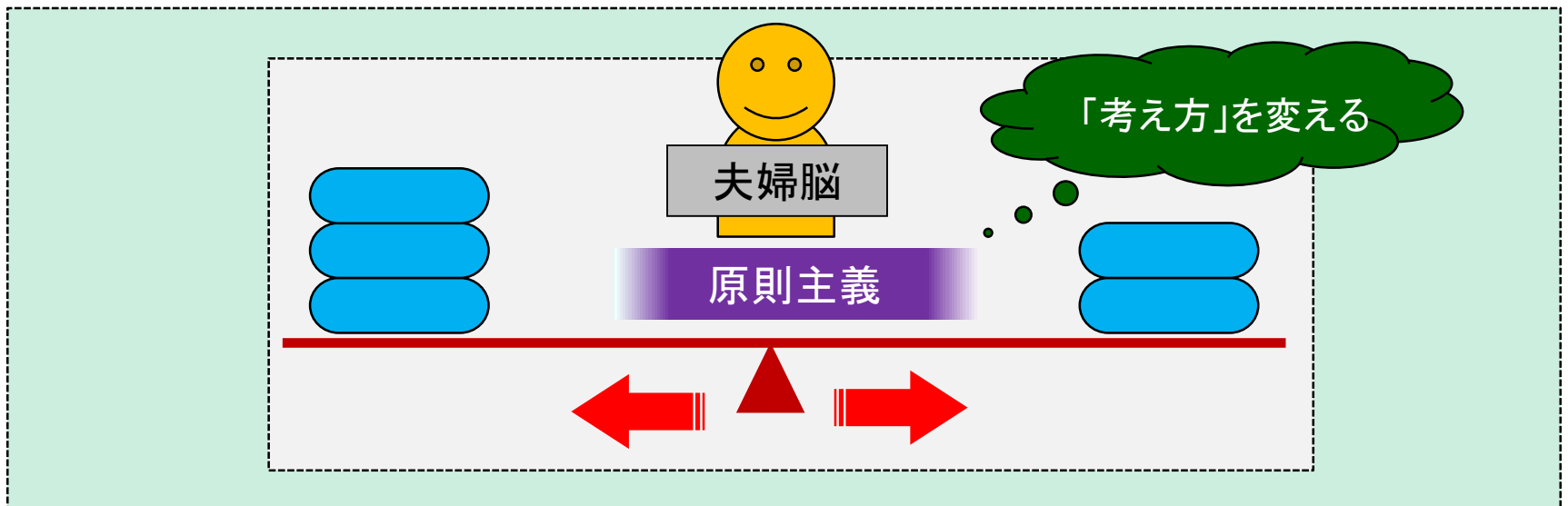
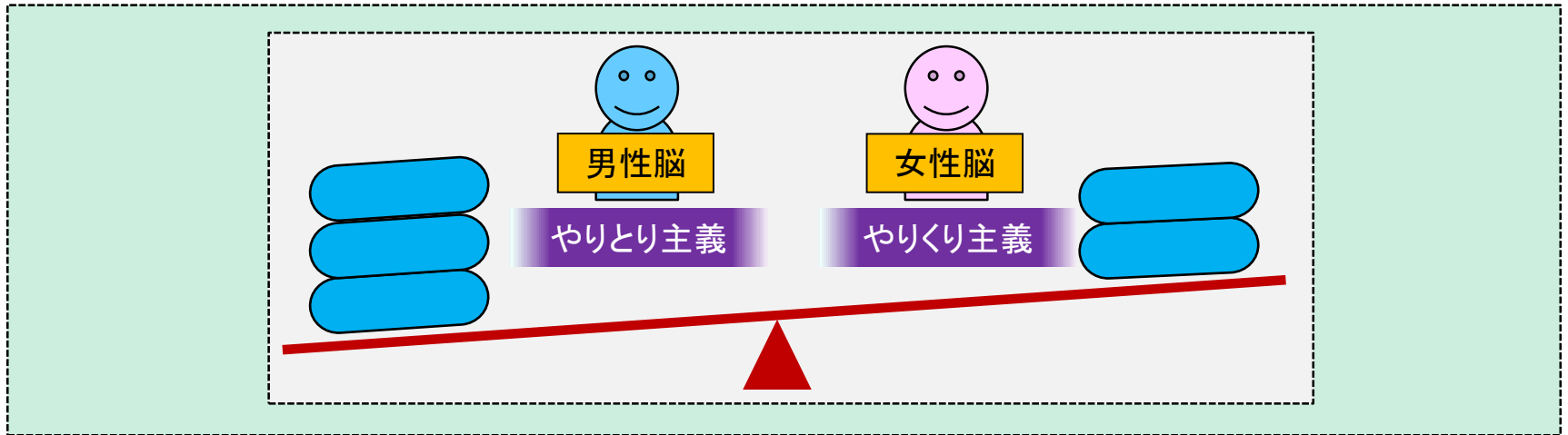
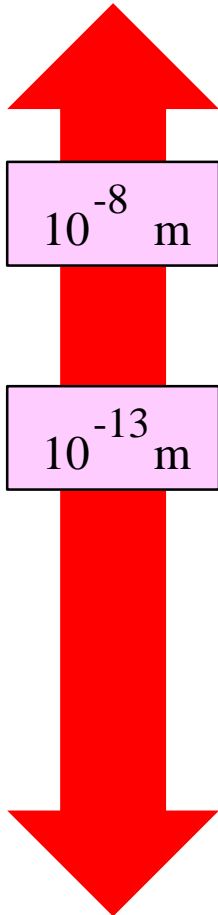


展開すると、原則が変わる



自然界を展開する

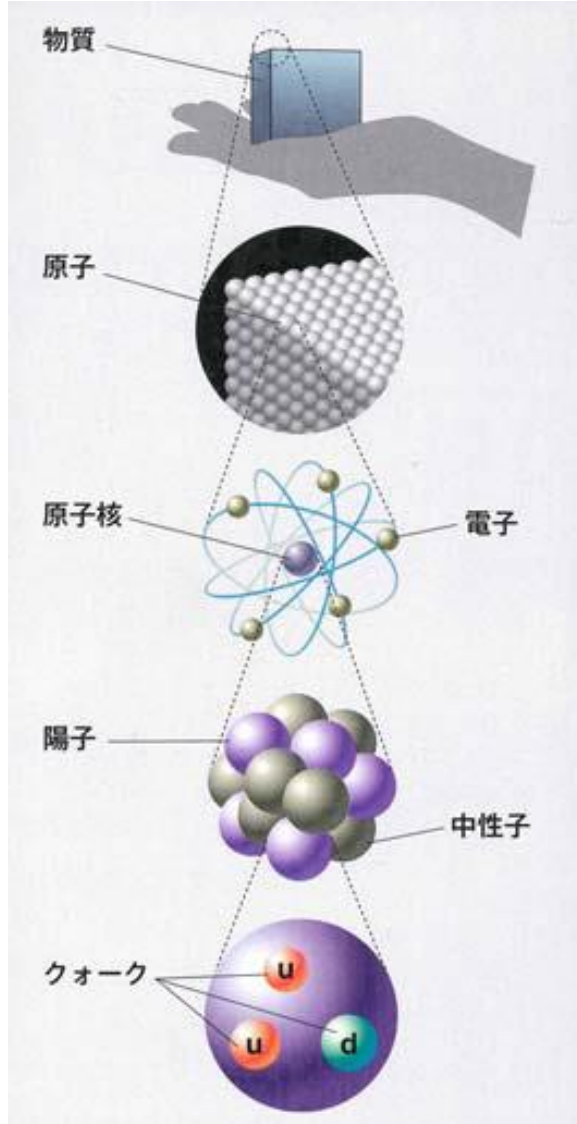
因数分解



10^{-8} m

10^{-13} m

展開



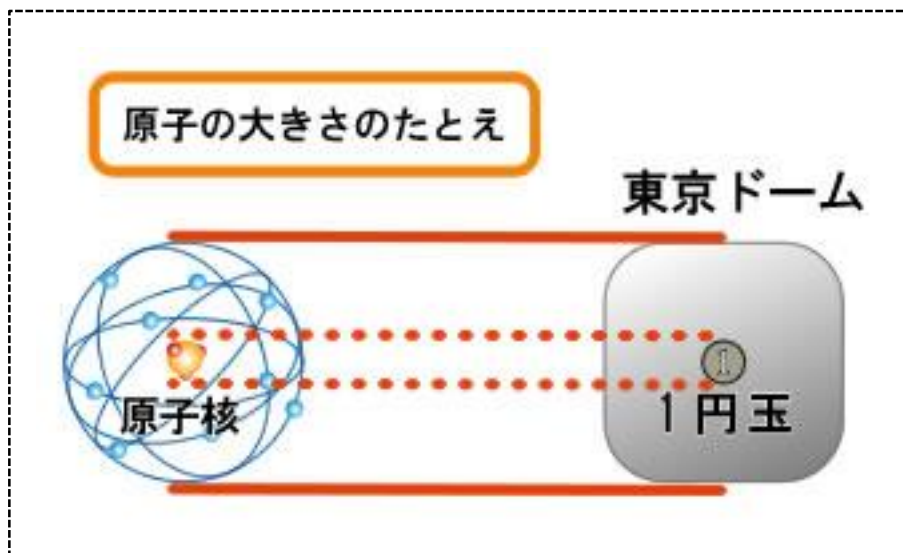
古典力学

統計力学

量子力学

「高エネルギー加速器研究機構」より

原子の世界（原子核+電子）



東海村原子力広報より

ほとんどが空洞

石・草・人の
区別なし

「考え方」が境界をつくる

「生きることの達人は、仕事と遊び、労働と余暇、心と体、教育と娯楽、愛と宗教の区別をつけない。何をやるにしろ、その道で卓越していることを目指す。仕事か遊びかはまわりが決めてくれる。当人にとっては、常に仕事であり遊びでもあるのだ」

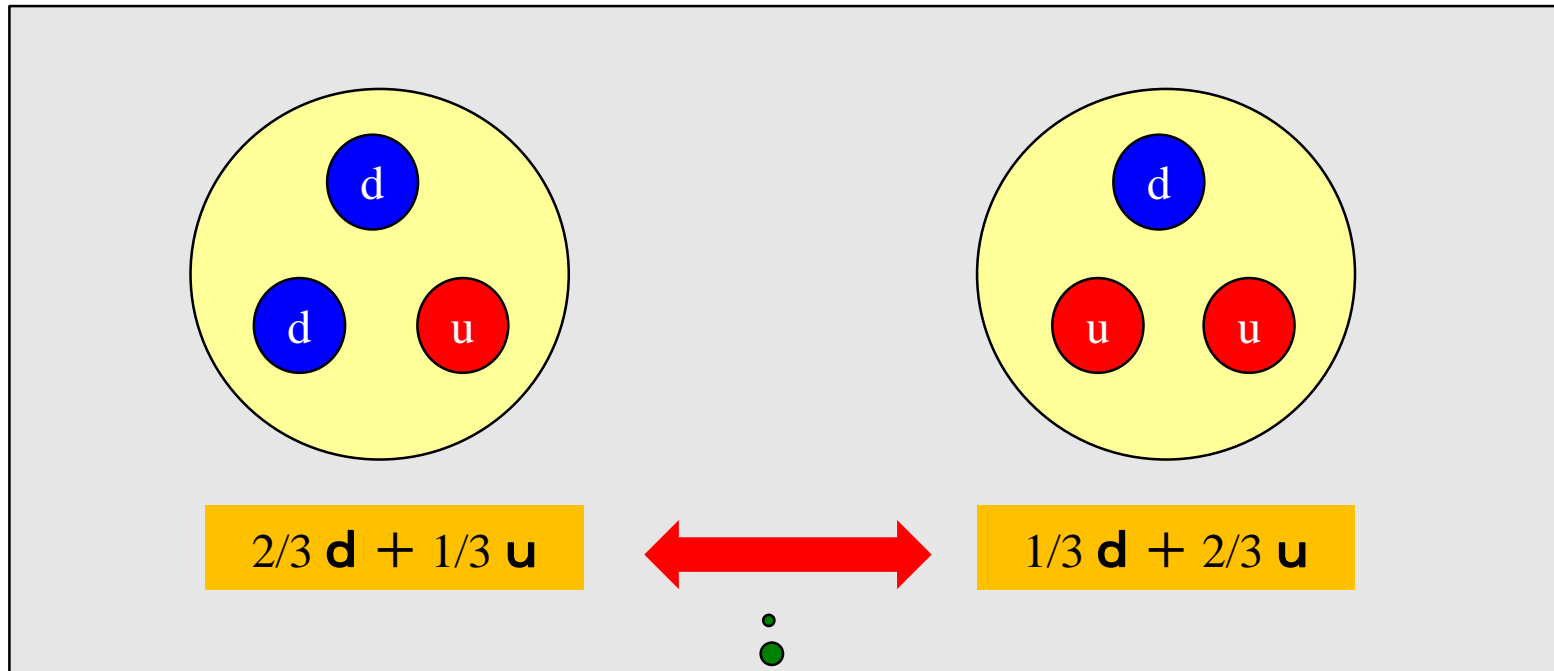
これは老子の言葉ですが、実に象徴的で示唆に富んでいます。

人生を仕事かプライベートかといった従来の区分けで考えるのをやめて、自分らしさを追求すること。大いに楽しみながら、ビジネスでも「自分にとっての満足できる成果」をあげていくこと。

そうした考え方を、みなさんとシェアできたら、これほどうれしいことはありません。

ノマドライフ(本田 直之)より

素粒子の世界（3つのクォーク：デジタル性）



デジタル(非連続)

中間は存在しない

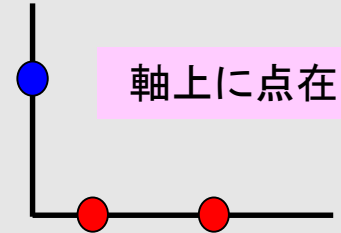
フェルマーの最終定理

1次元

$$1^1 + 2^1 = 3^1$$

自然数 + 自然数 = 自然数

必ず存在する

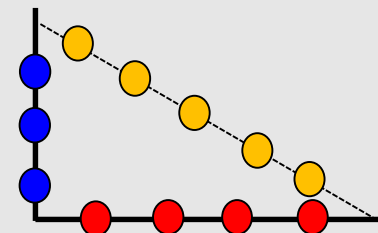


2次元

$$3^2 + 4^2 = 5^2$$

自然数 + 自然数 = 自然数
(ピタゴラスの定理)

稀に存在する

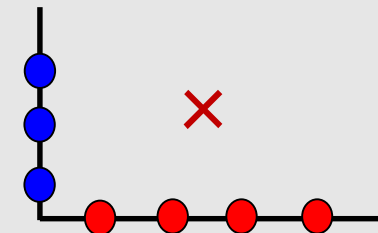


3次元

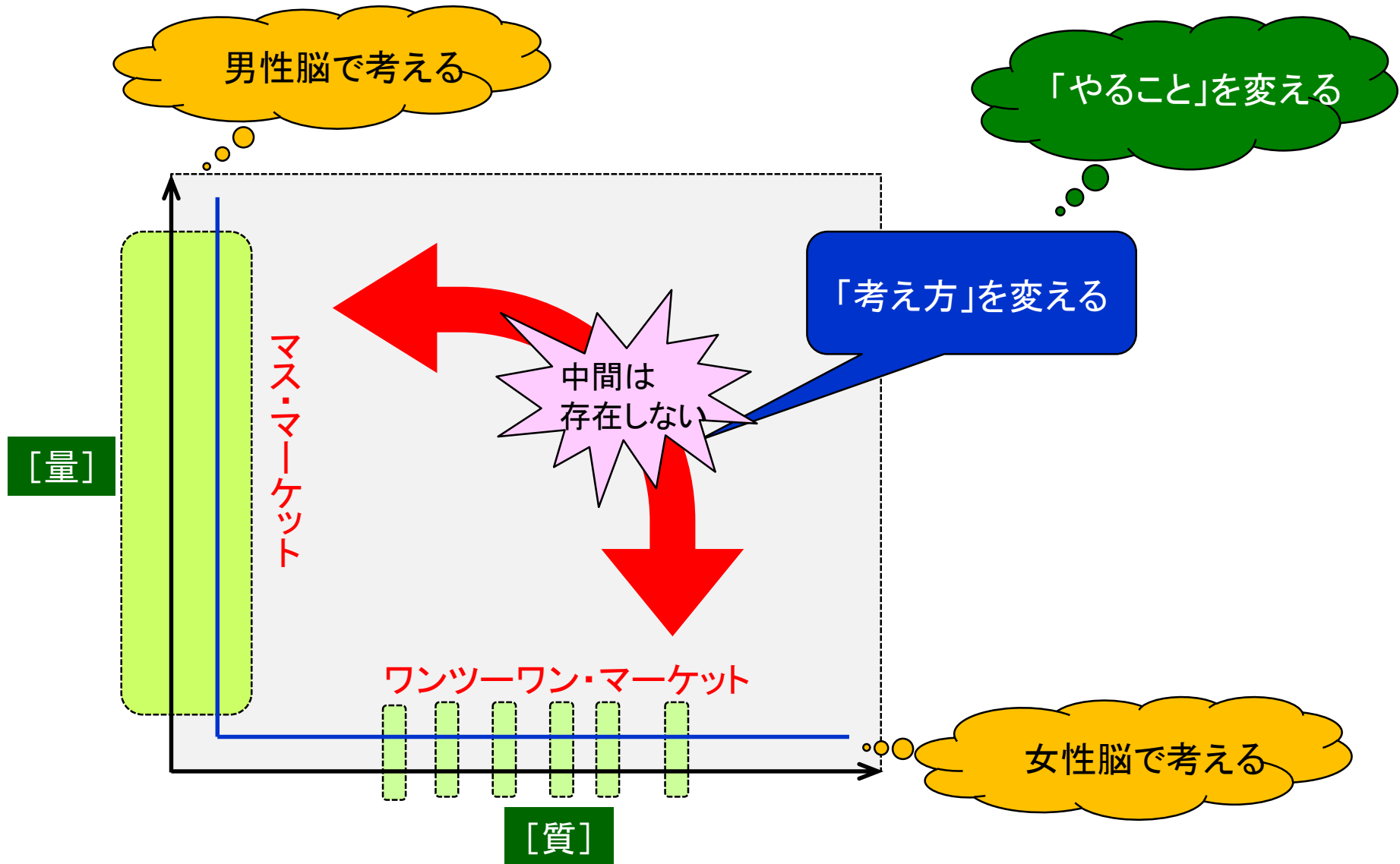
$$X^3 + Y^3 = Z^3$$

自然数 + 自然数 = 自然数

存在しない



デジタルで考えるとは？



境界を超える（ひと回り以上違う世代とつき合う）

わたしは今、学生に合ったり、学生向けの講演をしたりしています。純粹に面白いというのがありますが、いちばんの動機は思考のストレッチになると思ったからです。

世代が違う人、ときに自分よりひと回り、ふた回りは若い人とふれあうと、海外に行くと異文化とふれあうことと同じくらい新たな発見があります。考え方も価値観も驚くほど違っているのです。

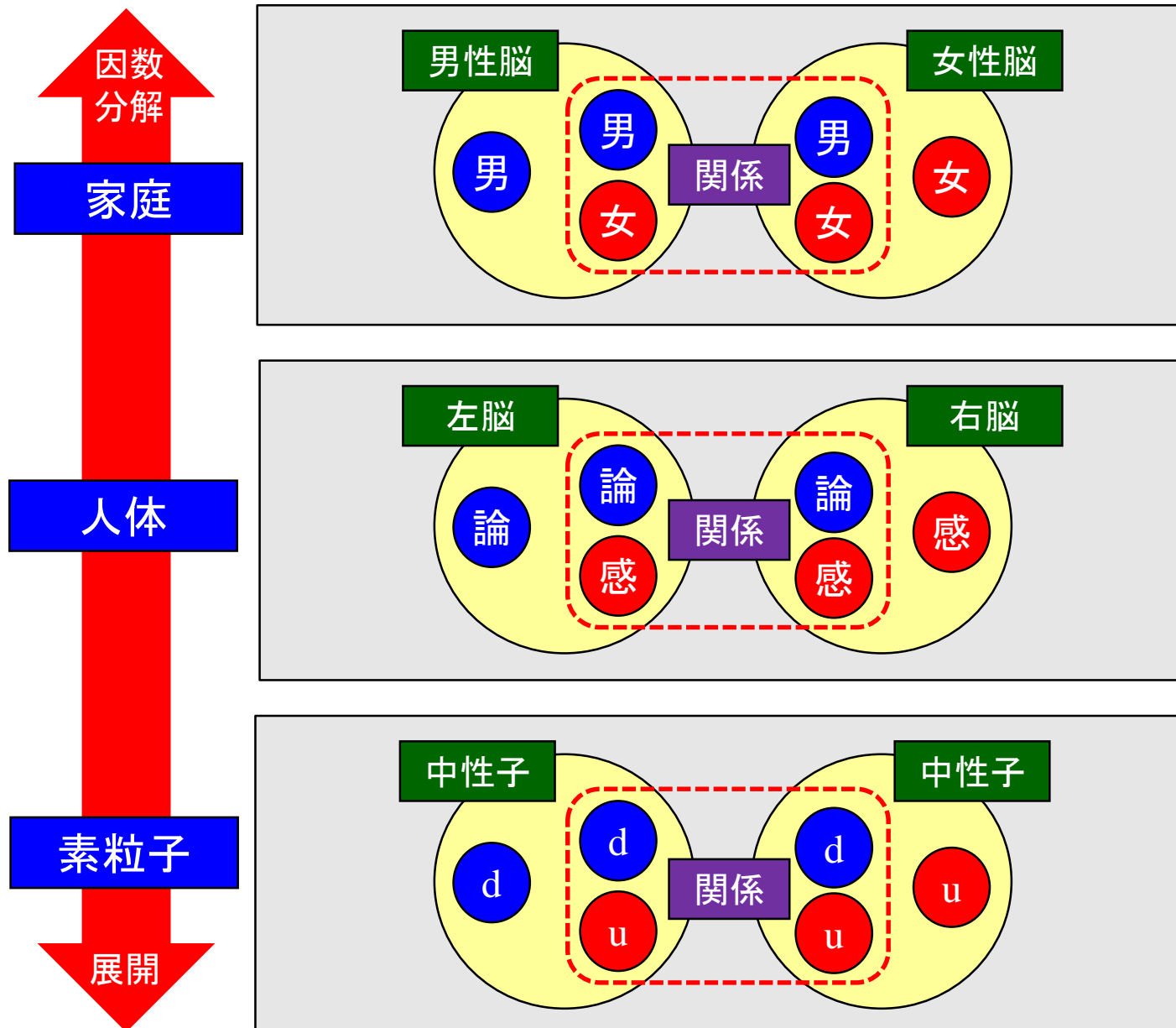
「今の若い子たちはダメだ」

これはかつて自分たちが、旧来型のスタンダードでいう『正しい大人』たちに言われていたことです。当時のわたしは「わかってねえな、この大人たち」と思っていたのに、いつのまにか自分がその大人の側になってしまう。そんなことは悲しいし、断固阻止したいのです。実際、成功している50代、60代の経営者の方はみな共通して、ひと回り、ふた回り違う若い友人を数多くもっているし、同世代や年上とはつき合わないのです。

若い世代や学生に合うと、「お忙しいのにありがとうございます。感激です」と言われますが、こちらが感謝したいくらいです。「みんなのためになろう」という思いもありますが、彼ら彼女らの考えに触れることが、自分にとってもためになっています。

ノマドライフ(本田 直之)より

素粒子の世界（3つのクォーク：共有性）



境界を越えて（言葉以外の共通言語を持つ）

ノマドライフを送ることは、異文化に触れることです。その際、語学力だけあれば、つながれるという話ではありません。大切なのは何を語るかです。

語学力をつけるのと同時に共通言語を持つトレーニングをしましょう。たとえ英語が堪能になったとしても、世界には英語が通じない国はいくらでもあります。中国語もスペイン語もできても、話題がなければ関係は築けません。

まったく文化が違うと共通の話題は見つけにくいものです。同じ国の人同士だったらたいい見つかる、「A社で働いているなら、〇〇さんを知っている？」「どこの出身？」といった『なんとなく成り立つ材料』が、異文化の人とのあいだではまったくないわけです。テレビ、本、流行の共通認識も難しい場合が多々あります。

そんなとき共通言語があれば、語学力が低くても何とかできます。コミュニケーション能力のベースができるのです。

共通言語として、趣味や興味を深掘りしてみましょう。スポーツ、ワイン、食文化。世界遺産も話題になりやすいと思います。わたしは猫好きなのですが、ペットも世界共通で語れます。強烈に人にアピールする得意なものがあれば、その部分を強化するのもいいでしょう。

ノマドライフ(本田 直之)より

ジッポの法則

「集団の知恵の法則」とは、以下の4つの要件を備えている集団の意思決定は、個々人の意思決定よりも精度が高くなるという法則です。

- ①意見が多様であること
- ②他者とその考えが独立していること
- ③意見の材料となる情報が分散していること
- ④判断を集約するメカニズムがあること

(出所:『「みんなの意見」は案外正しい」ジェームズ・スロウィッキー著)

つまり、一人ひとりのマーケットターやプロがうんうんとうなって考えるより、マーケットに直接問い合わせをしてしまった方が、より正しい結果が得られるということになります。

勝間式「利益の方程式」(勝間 和代)より